

9

ひらつか

平和憲法を守れ！



9条の会

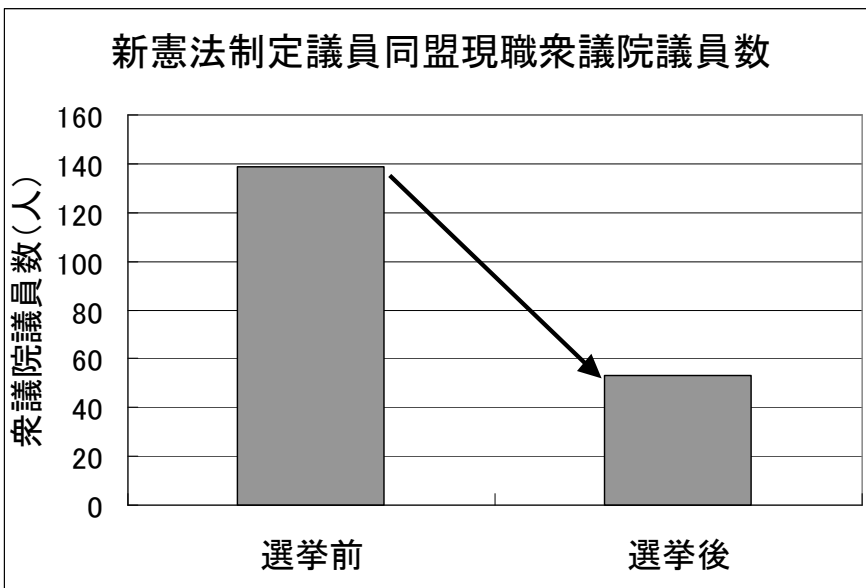
ニュース

文責：事務局長 鈴木 康之 TEL/FAX 0463-58-7587
連絡先：平塚市南金目 2345-6 金目教会内

2009年10月号

ホームページ：<http://www.geocities.jp/hirakujojp/>

改憲派議員が大量落選（衆院選 139→53） 「9条の会」の活動のチャンス



8月30日に行われた総選挙の結果は、憲法九条を敵視し、改定しようとする改憲派の議員集団「新憲法制定議員同盟」* が大量に落選するという結果となりました。（左図参照）改憲派にとっては、憲法九条を改訂するうえで大きな傷手となったはずです。憲法九条を守る「9条の会」の運動を大きくするチャンスでもあります。

選挙結果について

一方、平塚では8月

に行われた戦争体験を次世代に伝える「平和を語りつぐ」の催しに市教育委員会の後援が得られませんでした。その理由が、主催者に「9条の会」が参加しているからということです。憲法九条を守るという当たり前の活動が偏った活動とみなされている現状です。「9条の会」の運動はまだまだ微弱です。憲法九条が生活の中に根ざし、世界に広がっていくために、活動を更に広げていく必要があります。

* 新憲法制定議員同盟は改憲だけを目的に掲げて議員を集めている団体です。自主憲法規制議員同盟が前進で、二〇〇七年三月に名称変更しました。会長は中曽根康弘元首相です。九条の会を名指しで敵視し、これに対抗する運動を全国で起こすという方針を掲げています。

衆議院15区小選挙区候補者への公開質問状報告

「9条の会」は、8月30日の総選挙前に、15区候補者に、「憲法9条の改定についてどのように考えていますか」と質問しました。回答結果を報告します。

民主党 : 勝又恒一郎 回答「改定する気持ち、考えはありません。」

日本共産党 : 西脇拓也 回答「憲法9条の改定には反対です。・・・以下略。」

自民党 : 河野太郎 未回答

幸福党 : 浜田勇作 未回答

第7回 「平和を語りつく」結果報告 平塚市民による平和へのメッセージ

事務局 田口三省

他の団体との共催で、二日間にわたり、反基地活動を行っている市民活動家による記念講演と、第二次大戦に軍人・軍属として従軍した人たちの戦争体験談を聴く会を持った。



第一部の8月1日には、市民活動センターにおいて、横須賀で永年、反基地闘争を続けてこられた新倉裕史氏による“活かそう自治体の平和力～基地の街ではない横須賀を求めて～”と題する講演を聴いた。急増する米艦船の寄港は何を意味するのか、神奈川県が抱える軍港・横須賀の現状などの話が中心であった。市民活動家にありがちな気負い、反権力の立場を必要以上に強調し、権力側をひたすら批判し、対決するという姿勢ではなく、またデモをするにも、一般市民や警察という取締当局とも対立するより、調和を図りながらやっている、という柔軟な姿勢には大いに共感を覚えた。一般市民から遊離しないで、現実的な活動の方法

を採っているという点は九条を守る活動を展開する我々にとっても、大変参考になるものであった。なお、聴衆は40名強であった。

第二部の8月2日は、“戦争体験語り「言い残したいこと・聴いておきたいこと」”をメインテーマに、八幡山の洋館（旧水交社）にて6人の戦争体験者に、それぞれ「平塚空襲の実態」、「小笠原方面への従軍体験」、「データから見た太平洋戦争の被害」、「毒ガスの製造に携わって」、「陸軍輸送船乗組み」及び「語り残しておきたいこと」と題して講演して頂いた。このうち「小笠原方面への従軍体験」の海老原芳巳さんと「陸軍輸送船乗組み」の梶山 登さんは当「ひらつか九条の会」の会員である。言うまでもなく、何れも貴重な体験談であるが、次第に講演者の高齢化が進むことを考慮すると、もっと多くの、出来れば若い人達に聴いて貰いたいものである。集まった聴衆は約50名に上ったが、将来を担う若い人が見当たらなかったことが残念であった。



以上

第4回 まちかどトークと音楽とつどい結果報告

事務局長 鈴木康之



今回で第四回目を迎えた「まちかどトークと音楽」の催しは一つの新しい展開を見ることができた。ひらつか 9 条の会の従来からの目的のひとつに、当会の活動をあまねく市民に知っていただく、というものがあつた。準備段階でも、様々な意見が出されたが、もう少し紅谷町まちかど広場で続けて、ある種の定着を目指そうと私達は決めた。9 月 18 日の午後 1 時半過ぎ、岩崎昇氏のトークから始まったこの度の集会の実質参加人数は

30 名、今までよりは多数、それは平塚市で近年より充実を得ている「うたごえ喫茶」の面々の協力があつたためだ。また、市民の足が会場に向いた一理由に、この度はバザーを実行し、同時に活動のビラも配布した。バザー品も購入した人が一緒に席に着く、一緒に歌い、トークを聞く、という交流にはとどかないまでも、接点を持てた点では大成功と言えよう。因みにその収益は 15,850 円也！ 今後の活動のバネになる。

イラク帰還兵証言記録「冬の兵士」DVD 映画上映会を見て

事務局 吉田貞夫

9 月 26 日(土)、「冬の兵士」DVD 上映会を視聴しました。それは、フリージャーナリスト（イラク戦争取材したいがためマスコミを飛び出した）田保寿一氏により、イラクで戦った兵士たちが「ウインターソルジャー」と名付けた証言集会を開催し、イラクでの無差別殺戮の証言を記録した内容となっています。

その上映会を見ながら、私が終戦の時を思い出しました。今は平塚市役所のあるあたり、火薬廠の塀際を、リヤカーを引いて歩いていたおじいさんがアメリカのグラマンに狙撃され亡くなりました。その時の銃撃の弾痕が残る火薬廠の塀はしばらく残されており、その脇を通るたびにその悲惨な事実を思い出したものです。今は、市役所の芝が青々と生えており、「核兵器廃絶平和都市」の看板が立っています。

9・11のトラウマが残っている今日、「テロ撲滅の正義の戦争」ということで、無辜のイラク人を殺戮する「誤った戦い」として告発する行動に立ち上がったアメリカの若者たちの勇氣に感動しました。そして、戦争は、いつ、どこの戦争でも、全く無抵抗の市民を犠牲にするものだと感じました。冷静な判断力をもたない政治指導者の愚かさ、誤りを認めようとしない無責任さ、日本の小泉元首相もしかりです。真実を報道するマスコミの不存在、真実を知ること、知らせることの困難さ、イラクやアフガニスタンで行われている無差別殺人に、日本の自衛隊が参加させられる危険性を思い知らされました。最後に、憲法 9 条を守ることの意義がますます重要であることを認識しました。

会員からの投稿

『戦後史』に学ぼう

岩崎 昇

8月1日と2日に行われた集い「平和を語りつぐ」に参加しての思いを少し。

第1日の講演から。横須賀の皆さんの原子力空母反対運動の緻密さと根強さに敬服。40年あまり前に、原潜反対のデモに何度か参加した記憶がよみがえり、まだ続いていたのだと感動を覚えました。

さらに憲法9条に最も切実に関わりがあるのが自衛官であるという、すぐれた視点が示されたことには、まさに覚醒の思いだった。

2日目の、6人の語り部による戦争体験談を聞いた後、一つの考えが動き始めたので簡単に述べてみたい。

すでに80歳を超える世代にとって、戦争の時代は昭和6年の満州事変に始まり、昭和20年8月の敗戦までが14年間。それに比べて今日までが64年の長きにわたる。その間に今の憲法を得たものの、昭和25年の夏には朝鮮戦争。ひきつづき「警察予備隊」ができ、保安隊、自衛隊と呼び名を変えながら数年の内に、陸海空の3軍をそろえた、リッパな軍隊が復活し、憲法をあざ笑うかのような状況が生まれてしまった。

昭和の戦争体験したものの多くにとっては「東の間の平和」を享受したに過ぎなかったといえようか。

戦後60年を過ぎた頃から80歳代の軍隊での戦争体験者が、ようやく重い口を開くようになり、個人レベルを超える語りのばあい、わが国の現状を憂えるものにとって益するところも少なくなかったであろう。そしていま現在緊要なことは、60余年の戦後の歴史からさらに学んで、生活と平和、そして民主主義のために我々の憲法を守る運動と意志を、次世代・次次世代に“語りつぐ”事ではないのだろうかと考える。またこのたびの、横須賀の運動経験の説明はよい模範を示してくれたと思う。

「ひらつか・9条の会」の11月活動予定

11月7日(土) **例会** 午前10時から 市民活動センター会議室

毎月第1土曜日に、会の活動について活発に議論しています。また、伊藤真の「中・高生のための憲法教室」を題材にミニ学習会も行っています。会員は自由に参加できますので、皆さんも気軽に参加して、一緒に学び、論議しましょう。



11月28日(土) **第19回定例学習会 「憲法九条・沖縄県・米軍」**

講師：鈴木 康之 午前10時から 市民活動センター会議室